

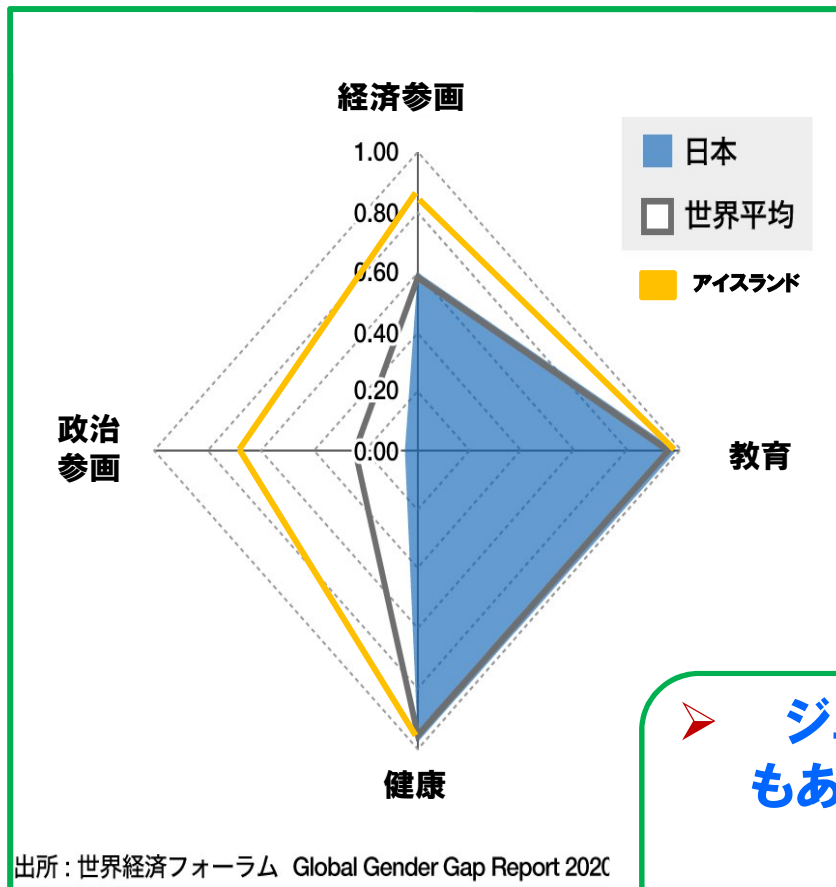
文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」
第3回全国ダイバーシティネットワークシンポジウム（オンライン開催）
2020年12月14日

コロナ新時代を拓く
ジェンダー・ダイバーシティの実現に向けて

**全国ダイバーシティネットワークに
期待する**

相澤益男
（国研）科学技術振興機構顧問・運営統括
東京工業大学名誉教授・元学長

ジェンダーギャップ指数(GGI) 世界ランキングの警鐘！



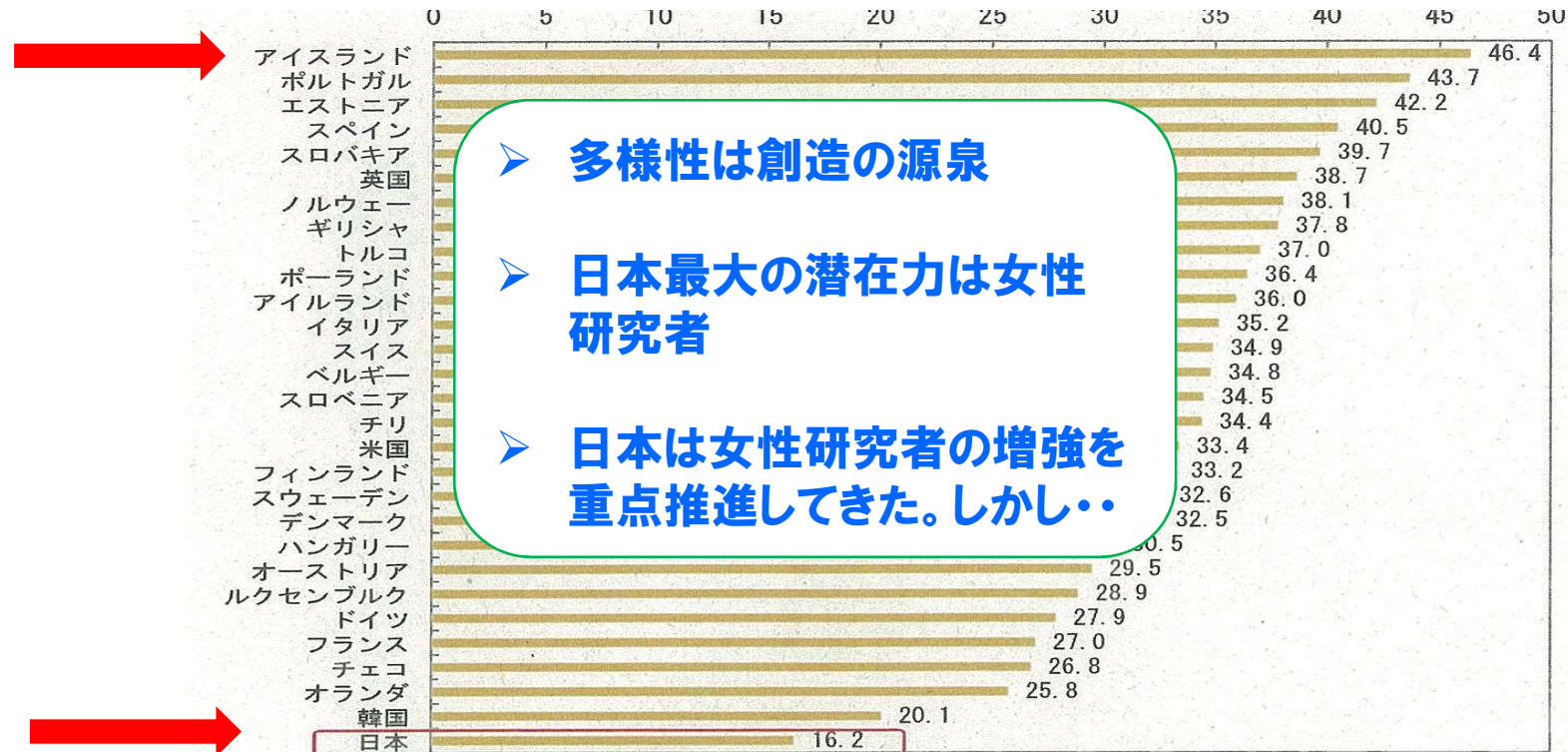
WEF Gender Gap Index (GGI) 世界ランキング

	2006年	2020年
アイスランド	4位	1位
日本	80	121

- ジェンダーギャップはその国の潜在力でもある
- ジェンダーギャップの是正が時代を切り拓く

世界で進む女性研究者の躍進

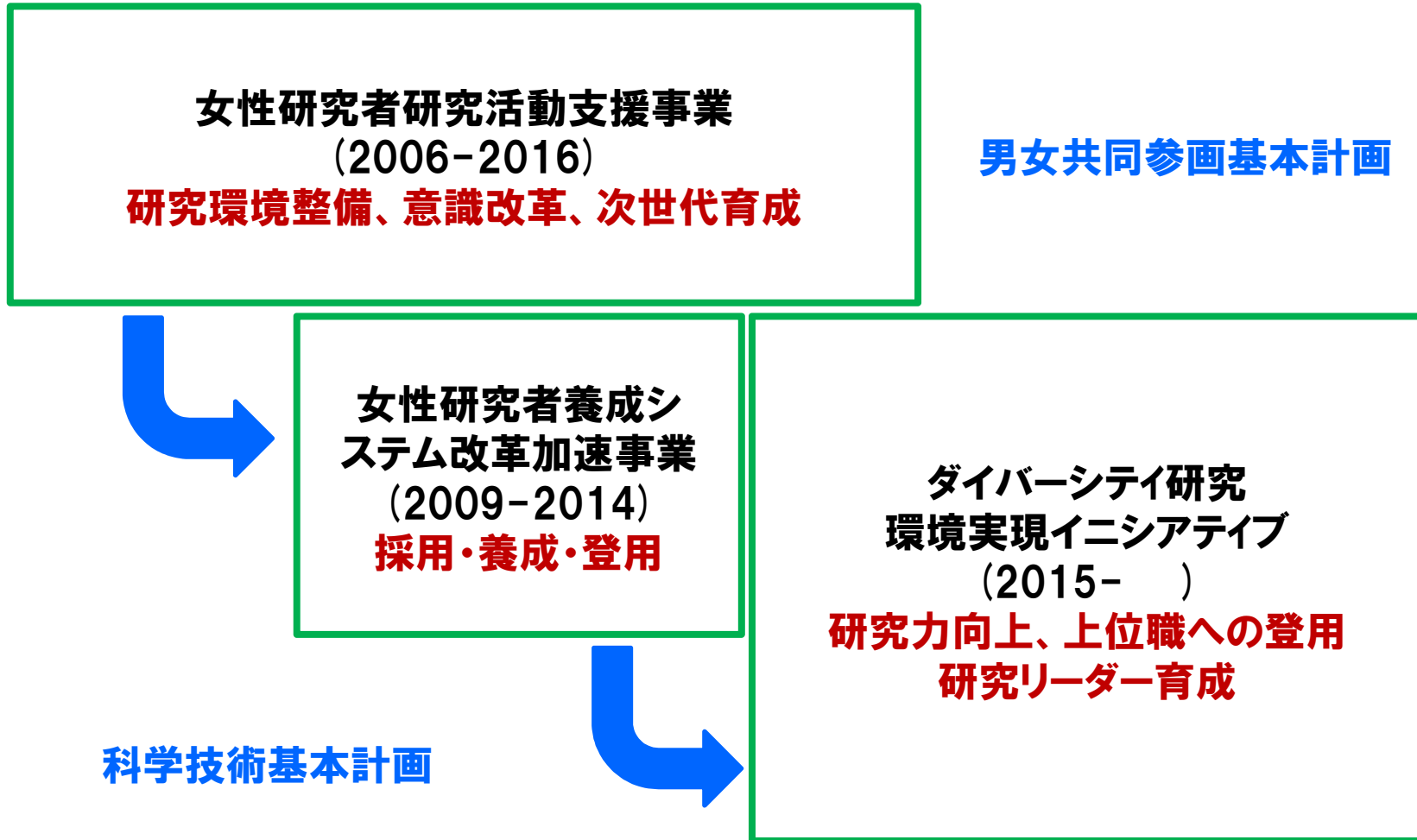
女性研究者割合の国際比較



▶ 多様性は創造の源泉
 ▶ 日本最大の潜在力は女性研究者
 ▶ 日本は女性研究者の増強を重点推進してきた。しかし..

- (備考)
- 総務省「科学技術研究調査」(平成30年), OECD “Main Science and Technology Indicators”, 米国立科学財団 (National Science Foundation : NSF) “Science and Engineering Indicators 2018” より作成。
 - 日本の数値は, 2018 (平成30) 年3月31日現在の値。アイルランド, 米国, デンマーク, オーストリア, ルクセンブルク, フランスは, 2015 (平成27) 年値。英国, ポーランド, イタリア, スロベニア, オランダは, 2016 (平成28) 年値。その他の国は, 2017 (平成29) 年値。推定値及び暫定値を含む。
 - 米国の数値は, 雇用されている科学者 (Scientists) における女性の割合 (人文科学の一部及び社会科学を含む。)。技術者 (Engineers) を含んだ場合, 全体に占める女性科学者・技術者割合は28.4%。

文部科学省 「女性研究者活躍促進事業」の展開



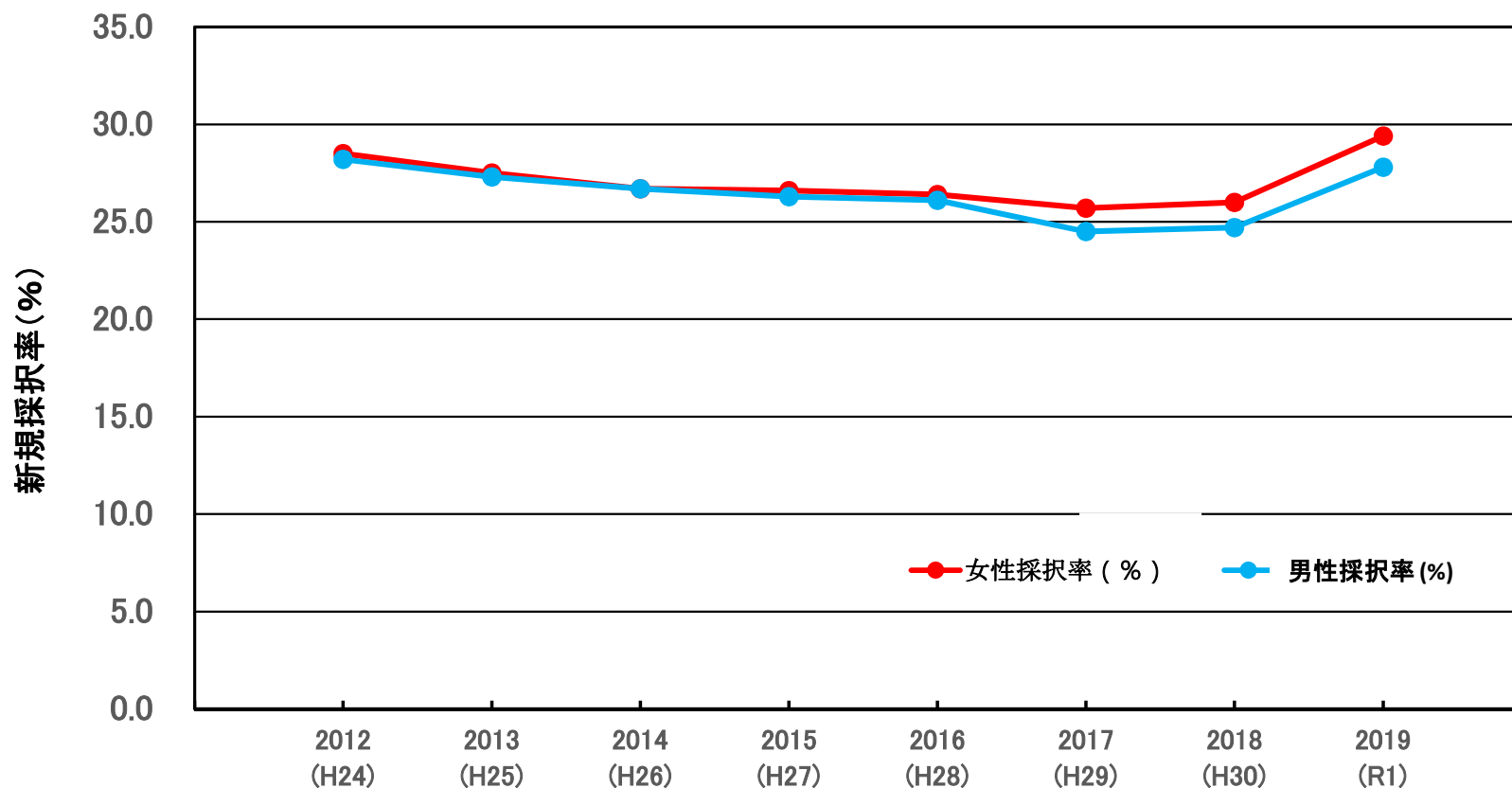
日本の女性研究者は増大！ しかし、国際比較での厳しさは変わらない



出典: 総務省科学技術研究調査(2019)

日本における研究費獲得の ジェンダーギャップ

男女別科研費（全種目）新採択率の推移



(出所) 日本学術振興会科研費データよりJSTが作成

「女性研究者が活躍するための環境改善」 についての意識調査



科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) 定点調査 (2019)

なぜ「全国ダイバーシティネットワーク」なのか？

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」



- ジェンダーギャップの是正は大学改革における重要課題だと認識されるようになった
- ダイバーシティ研究環境実現事業の好事例は横展開されるべきとの認識が強まってきた
- 今こそ、全国規模で、大学、研究機関、企業をつなぎネットワークを構築する時

全国ダイバーシティネットワークに期待する

全国ネットワーク中核機関(群)(2018-2023)

幹事機関:大阪大学

協働機関:東京農工大学、日本アイ・ビー・エム株式会社

協力機関:日本学術会議

- ◆ 全国ダイバーシティネットワークの構築
- ◆ 新型コロナウイルス・パンデミック対応
- ◆ 全国ダイバーシティネットワークの継続性